

五色の短冊 色とりどりの七夕飾り

6月26日、上押方サテライト会(6名)が、あまてらす鉄道の高千穂駅において、七夕の飾り付けを行いました。

同会は、新型コロナウイルスの発生以降、終息への願いや町や鉄道を訪れる観光客の心を和ませ、少しでもにぎわってからおうと始めたことがきっかけで、この日も、列車の出発時刻を待つ利用者が、短冊に思い思いの願い事を書いて竹にくりつける姿が見られました。



住民の交流拠点と観光の拠点に 町観光協会新社屋を建設

6月27日、(社)高千穂町観光協会(竹尾通洋会長)の新社屋建設地鎮祭が行われました。

神事では、神楽「地固め」が舞われ宝渡しが行われた後、祝詞が読み上げられ、参列者が御神前に玉串を捧げ、工事の安全を祈願しました。

新社屋は、木造3階建て。延べ床面積が801㎡。1階及び2階が地元住民や観光客の交流や展示、体験コーナー。3階が事務所。令和8年に完成する見込み。



かぎんSDGs推進私募債 伝統料理の継承活動へ

6月19日、ホテル高千穂の指定管理者である株式会社ケイメイ(有馬佳孝代表取締役・宮崎市)が、「かぎんSDGs推進私募債」を活用した寄付の申し出があり、鹿児島銀行宮崎支店の久見瀬克己支店長から目録が手渡されました。

有馬代表取締役は「高千穂に伝わるさまざまな伝統料理を途切れさせないためにも、子どもたちに伝承するために活用してほしい」と話しました。



絆(きずな)を深め、未来を守る 全国消防救助技術大会派遣選手選考会

6月25日、西臼杵広域行政事務組合消防本部(白高一昭消防長)で、第53回全国消防救助技術大会「ほくく救助」の派遣選考会が行われました。

ほくく救助は、1人が空気呼吸器を着装して長さ8mの煙道内を検索。要救助者を屋外に救出した後、二人で安全地点まで搬送する連携訓練の一種。今回、7チームの中から、藤本啓貴消防士長、藤岡拓未消防士長、新名能直消防士長が選ばれました。



世界農業遺産に認定され10周年 大阪・関西万博で高千穂の夜神楽を披露

6月8日、大阪・関西万博において、高千穂の夜神楽の公演が行われました。

公演は、国税庁・文化庁・農林水産省が取り組む「食と暮らしの未来ウィーク」のステージイベントとして、河内神楽保存会(8人)が、「弓正護」「八鉢」「鉦女」「戸取」の4演目を約4500人の観覧者を前に披露しました。

高千穂郷・椎葉山地域が世界農業遺産に認定され10年。貴重なプロモーションとなりました。



国スボ実行委員会へ寄付 町観光協会に感謝状を贈呈

6月9日、国スボ高千穂町実行委員会(実行委員会会長は町長は、「第81回国民スポーツ大会高千穂町協賛・寄附取扱要項」に基づき、大会準備や運営に対する寄付を行った(社)高千穂町観光協会(竹尾通洋会長)に対し、感謝状を贈呈しました。

竹尾会長は「協会としても大会を成功させたい。町を訪れる方々がよかったと思うよう町と協力をしてすばらしい大会にしたい」と話しました。



警戒避難体制の強化と防災意識の向上を図る 防災訓練・講習会を開催

5月31日、東岸寺地区と上寺地区で、土砂災害・全国統一防災訓練が行われました。

訓練は、地元消防団や自衛隊、警察署などの関係機関と地区住民が参加。住民らは、それぞれの公民館へ自主避難をした後、自衛隊(第43普通科連隊)の車両に乗り込み岩戸体育館へ移動。災害に関する講話やペット同行避難について講習会が行われ、閉会后、自衛隊炊事車による炊き出しの配布が行われました。



姉妹都市盟約5周年 台湾の花蓮市訪問団が来町

6月3日、花蓮市(台湾)から魏嘉彦市長ら訪問団12人が本町を訪れました。

訪問団は、役場での歓迎式を終えた後、高千穂峽などを観光。その日の夜は、姉妹都市盟約5周年と高千穂日華(日台)親善協会(佐藤哲章会長)創立35周年を記念する式典が開催されました。

式典では、お互いの地元特産品を交換。神楽や刈り切唄を披露し親睦を深めました。

